

No**145**
2021
Summer

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication

第74回 青森県高校総体 2年ぶり24回目
男子総合優勝 闘魂旗



CONTENTS

八戸工業大学第一高等学校

p2-3 第74回青森県高総体／進路展望／将棋部全国大会
出場／クリーン白銀／生徒総会／登校時巡回指導

八戸工業大学

p4-5 文部科学大臣賞受賞／新型コロナウイルス感染症に
挑む／卓球部優勝／オリエンテーション／文化奨励賞受賞／課題作品展示会／学生の声／
ICカードデザイン決定

p6-7 名誉教授／50周年関連行事（マチナカ公開講座・
シンボルマーク）／出前講座／すっぽんせんべい共同開発／保護者懇談会／主な予定／オープン
キャンパスの予定／進学相談会予定／2022年度入試予定／計報

八戸工業大学第二高等学校

p8-9 高校総体／ポスター表彰／野球部県春季大会／

小倉百人一首かるた部県大会第4位／情報ビジネス
コース（プログラミング講座・清掃奉仕活動）／美術コース（スケッチ実習）／カレッジコース
（OB サプライチェーン講義・防災教育・メディカルカレッジ出張講義・アクティブカレッジクラス
集会）

さくら幼稚園

p10-11 うんどうかい／みどりの風／ようちえんって
こんなところ／とらんぼりん

八戸工業大学第二高等学校附属中学校

p12 防災・減災教育研修&三陸ジオパーク研修旅行／
オリエンテーション合宿／校内弁論大会

p12 八戸工大一高寄付
理事会・評議員会報告

Mobile & iPhone & Android
モバイルサイトへアクセス▶▶▶



第74回青森県高等学校総合体育大会



第74回県高校総体を振り返って

6月4日～7日、「終わらない 終わらせない 執念のもう一步」のスローガンのもと、第74回青森県高等学校総合体育大会が開催され、県内各地の会場で熱き戦いが繰り広げられた。今大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、無観客で実施された。

早期開催競技の硬式野球部の準優勝から始まり、自転車競技部の優勝へと続いた。6月3日の結団式では、田名部智之PTA会長から「2年ぶりに開催される高校総体では、各部が力を出し切り本校初の闘魂旗と明朗旗を獲得してほしい」と激励された。

本大会では最終的にレスリング部男子、ソフトテニス部男女、水泳部男女、ボウリング部男子、登山部男子が優勝し、男女で8競技が優勝した。男子は6競技が優勝し、2年ぶり24回

目の総合優勝を成し遂げ、「闘魂旗」を獲得した。ボウリング部女子と登山部女子が準優勝、ウエイトリフティング部とバスケットボール部が3位、サッカー部とアーチェリー部男子が4位、剣道部、バレーボール部男子、ラグビーフットボール部、柔道部男子がベスト8であった。

昨年開催されずに悔し涙をのんだ先輩方の分まで頑張り、男女合わせて12種目が3位以上となり、スポーツ名門校としての証を示した。

部活動をする中で「楽しさ」「喜び」を感じるだけでなく、勇気、自尊心、友情、感謝などの価値観を実感できるようにしたい。そして生徒の意欲と満足度向上のために生徒、保護者、教員が三位一体となって取り組み、更なる飛躍を遂げたい。

結びに、日頃本校の教育活動にご理解ご支援を頂いている関係各位に改めて感謝申し上げます。

特別活動指導部長 石藤 壽也

男子総合優勝 2年ぶり24回目の闘魂旗獲得

青森県高校総体入賞部一覧

男子種目

○団体優勝

自転車競技部	2年連続25回目
レスリング部	7年連続16回目
水泳部	2年ぶり26回目
ソフトテニス部	2年ぶり41回目
ボウリング部	5年連続11回目
登山部	3年ぶり17回目

○団体準優勝

硬式野球部

○団体第三位

ウエイトリフティング部
バスケットボール部

○団体第四位

アーチェリー部
サッカー部

女子種目

○団体優勝

水泳部	7年連続13回目
ソフトテニス部	3年連続18回目

○団体準優勝

ボウリング部
登山部

青森県高校総体個人優勝一覧

男子ソフトテニス部

東 淳之介(特別進学コース3年/中野中)	ダブルス
苫米地勝成(スポーツ進学コース3年/三本木中)	ダブルス

女子ソフトテニス部

櫻井 由依(公務員コース3年/中野中)	ダブルス
馬場 未祈(特別進学コース3年/中野中)	ダブルス

レスリング部

高橋 海斗(スポーツ進学コース2年/市川中)	55kg級
松野 桃圭(情報コース2年/下長中)	女子57kg級

小川 大輝(機械コース2年/十和田東中)	51kg級
渡邊 莉帆(公務員コース3年/白銀南中)	女子63kg級
荒川 重満(公務員コース3年/白銀中)	71kg級
久田 独歩(公務員コース3年/六戸中)	65kg級
永野 颯大(公務員コース3年/下長中)	125kg級

登山部

佐々木大翔(情報コース3年/大館中)	救急法
東 宏人(情報コース3年/根城中)	救急法
尾崎 優花(総合コース3年/是川中)	救急法
中山 葵(建築コース3年/中沢中)	救急法

自転車競技部

齊藤英伊須(電気コース3年/大館中)	3kmインディヴィデュアルパーシュート 大会新記録
	ポイントレース、ロードレース、チームスプリント、4kmチーム・パーシュート
木村 駿希(機械コース3年/江陽中)	4kmチーム・パーシュート、チームスプリント
山下 輝陽(機械コース3年/中沢中)	スクラッチ、4kmチーム・パーシュート
山道 蓮(電子通信コース/2年/階上中)	4km速度競争

進路展望 ～コロナ禍の企業～

例年、4月と6月に採用のお礼と今後の見通しを聞くことを目的に、県外の企業訪問を行っている。この訪問で、各企業の情報をいただくことができ、また信頼関係を築くこともできるため重要であると考えていたが、新型コロナウイルス感染拡大により2年続けて断念せざるを得なくなってしまった。



現在、経済の急減速から、業績悪化となっている企業が多い。しかし、企業は「自動化、効率化などを進め、業績を上げる」という目的意識を持っており、採用意欲も高い。就職氷河期と言われた時代とは状況が異なっており、新入社員にかける期待も大きい。生徒も企業の期待を感じながら就職に取り組むことが大事だと思う。

6月に県内企業を進路指導部と3学年スタッフで訪問。集めた情報を今後の進路指導に役立てたいと思う。

将棋部全国大会出場決定

5月15日・16日、青森県総合社会教育センターで第63回県高校将棋選手権大会が行われ、中村叶愛さん（総合コース3年／江陽中・写真左）が女子個人戦で初優勝、男子では、谷崎慎也君（特別進学コース3年／八戸二中・写真右）、野口陽輝君（建築コース3年／根城中）、工藤陽君（普通科1年／堀口中）の3名が団体戦で第3位に入賞。谷崎君は個人戦でも第3位に入賞した。

中村さんは、7月31日、8月1日に和歌山県で開催される第45回全国高総文祭将棋部門の出場権を獲得、「昨年、全国大会が二つとも中止になった。高校最後の今大会は何とか開催して欲しい。決勝トーナメント出場を目標に、一層練習に励みたい。」と抱負を述べた。



下田 陸恭（電気コース2年／六ヶ所第一中）
1 km タイムトライアル
瀬川 大登（建築コース3年／根城中）
4 km チーム・パーシュート、チームスプリント

ボウリング部

佐々木歩夢（情報コース1年／白山台中）
男子個人戦、男子2人チーム戦
石川 優心（総合コース2年／四和中）
女子個人戦、女子2人チーム戦
田中 達也（機械コース3年／白山台中）
男子2人チーム戦

奥井ゆうか（総合コース2年／八戸二中）
女子2人チーム戦

水泳部

山村 碧姫（普通科1年／八戸東中）
200M自由形、400M自由形、400Mリレー、
800Mリレー、400Mメドレーリレー
高松 美緒（特別進学コース2年／三条中）
100M自由形、200M個人メドレー、400Mリレー、
800Mリレー、400Mメドレーリレー
檜館 寿音（特別進学コース3年／八戸東中）
800M自由形、400Mリレー、800Mリレー

第71回クリーン白銀

6月3日、今年度1回目のクリーン白銀を実施した。この行事は、学校周辺の美化活動を通じて地域社会への感謝と生徒の健全育成を目的として昭和54年に始まり、今年で71回を数える。

1年生はたかのはし歯科医院から湊中学校方面、2年生は山手通りから八戸東消防署方面、3年生は浜崖通りから白銀駅方面の清掃を、各クラス選出の総勢50名で行った。生徒たちは、日頃利用している通学路で地域のみなさんと挨拶を交わしながらゴミ拾いを一生懸命行っていた。



令和3年度生徒総会

5月12日、生徒総会が行われた。初めに生徒会長の橋村恵尚君（特別進学コース3年／三沢五中）から「私たちの学校生活をより良いものにするために、有意義な総会にしましょう」と挨拶があった。続いて、令和2年度の庶務報告と決算報告、令和3年度の予算案と年間計画が発表され、各委員会



委員長より今年度の活動計画が発表された。全員が真剣に話を聞き、一人一人が生徒会の一員であることを意識することができた総会であった。

登校時巡回指導・朝のあいさつ運動

5月13日、登校時巡回指導を行った。教員が学校付近、白銀駅、通学路に立ち、登校してくる生徒の安全を確認するとともに、下宿、寮、列車指導も行い普段の生活環境の整備や乗車マナーを指導した。

また、当日は生徒会生活委員の生徒と教員が毎月行っている「朝のあいさつ運動」に保護者の方もPTA活動の一環として参加した。参加した保護者は生徒に対して元気な挨拶で応えていた。生徒の一人は「相手から挨拶が返ってくると気持ちがいいです」と、キラキラした笑顔を見せていた。



佐藤 明香（特別進学コース3年／北稜中）
200Mバタフライ、800Mリレー、400Mメドレーリレー
山下 歩莉（スポーツ進学コース3年／堀口中）
100M背泳ぎ、400Mリレー、400Mメドレーリレー
片野 晴己（特別進学コース2年／三条中）
100Mバタフライ、400M個人メドレー
林崎 隼（特別進学コース2年／北稜中）
200M平泳ぎ、200M個人メドレー

剣道部

石鉢健太郎（公務員コース3年／下長中）

浅川准教授、文部科学大臣賞受賞



4月6日、令和3年度文部科学大臣表彰受賞者が発表され、本学、工学部機械工学科浅川拓克准教授が科学技術賞（開発部門）を受賞した。同月27日、本学にて授賞式および受賞会見が執り行われた。

受賞内容と受賞者

業績名「僻地救急医療の課題克服のための移動型緊急手術室の開発」

受賞者

- ・浅川拓克（八戸工業大学工学部機械工学科 准教授）
- ・今明秀（八戸市立市民病院院長兼臨床研修センター所長）

＝本研究開発について＝

僻地救急医療では高次救急施設への搬送に長時間を要するため、救命率や予後良好率が著しく低下する。特に出血性ショックや心肺停止では、根本的治療開始までの時間が予後良好率に直結する。良好な予後を目指すには、心肺停止発生からECPR（体外循環式心肺蘇生）を開始するまでの時間を60分以内とすることが望ましい。この条件を満たすことを考えると、実行可能な地域は救命救急センターがある都市部のみとなる。

医療過疎地域での救急医療課題を克服するため、2012年より移動型緊急手術室の開発に着手した。移動型緊急手術室は、院外に出動し心肺停止発生から60分以内にECMO（経皮的人工心肺補助装置：PCPS）等による高度なECPRを可能と

する。牽引型の1号機に始まり改良を重ね、八戸発世界初の自走式3号機「移動型緊急手術室ドクターカーV3」を開発、2016年に運行が開始された。

このことにより、都市部と同等以上の救命率と予後良好率向上の実現に成功した。2016年12月の救難事故による心肺停止、2020年4月の心原性院外心停止事案において、従来の救命法では、患者は社会復帰どころか救命すら難しい状況であったとの結論を得た。

ドクターカーV3の成果は、僻地救急医療における救命率および予後良好率を向上させ、さらに若い医師が憧れる本開発は、地方の医師不足解消にも大きく寄与している。

今後も、地域の医療課題を解決するため地方発の医工連携に尽力する。

推薦頂いた坂本禎智学長、本研究を見守ってくださった柳谷利通理事長、開発に尽力頂いた、機械工学科技術員の坂本勝男氏、早坂昭男氏、坂本秀社氏、寺井孝男氏に厚く御礼申し上げます。

工学部機械工学科准教授 浅川 拓克



< 新型コロナウイルス感染症に挑む >

2020年春以来、新型コロナウイルス感染症感染防止に社会貢献したいと、教職員・学生が連携し、研究開発に取り組んでいる。

医療従事者を守る、フェイスシールド寄贈

2020年春、コロナ禍が進み、市販マスクの入手困難、医療用マスク不足という危機的状況に陥った。メカトロニクス研究会は医療従事者の力になりたいと、工作技術センター職員の協力を得てフェイスシールドの作成に取り組み、6月下旬、八戸市立市民病院へ300個を寄贈した。



ドライバーを守れ！タクシー換気装置

2020年秋、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症からタクシードライバーや後続の乗客を守ろうとの取り組みから、後部座席強制排気システムが開発された。本学での公開実証実験の後、市内タクシー会社で実際の取り組みが行われた。



PCR 検体採取ボックスの開発

PCR 検査を行う際、医師が安全に検体を採取できるようにと、学科横断型で開発された「PCR 検体採取ボックス」が、2020年7月9日八戸市立市民病院に寄贈された。ボックス内部の気圧を高めることでウイルスの侵入を防ぐことができるこの装置は、企業と連携してコストダウンが図られ、医療現場で採用されている。



「どこでも陰圧室」開発

地域の救急医療を守るため、「新型コロナウイルス医療現場支援 第9弾」として、救急ストレッチャー対応陰圧BOX「どこでも陰圧室」の開発を行い、2021年6月7日八戸市立市民病院へ寄贈した。

「どこでも陰圧室」は、医療者を感染から守るための、医療用HEPA フィルター付きの空気清浄機により内部を陰圧化するとともに、患者への気管挿管やPCR 検体採取を可能とする装置である。



卓球部 1 部リーグ優勝

5月15日・16日、宮城県塩竈市で開催された、東北学生卓球連盟主催の2021年度東北学生卓球連盟春季リーグ戦（団体戦）において、本学卓球部が、男子団体1部の5大学に全勝し7年ぶりのリーグ優勝に輝いた。

また、桂 駿介さん（工学部土木建築工学科4年／岩手・宮古工業高）が優秀選手賞を獲得。同時に、7月1日～4日に京都府で開催される第90回全日本大学総合卓球選手権・団体の部の切符を手にした。



オリエンテーション

5月、コロナ禍の状況を考慮し、学科別の日程で、学内外で新入生対象オリエンテーションが実施された。

土木建築工学科では、中心街の課題解決の研究の一環として中心街を視察、先輩が取り組んできた研究を考察した。機械工学科では、学内でモデルロケットの制作と打ち上げ（写真）が行われるなど、学科ごとに特色が生かされたプログラムで行われた。



文化奨励賞受賞、伝統知継承を応援

創生デザイン学科川守田礼子准教授が（公財）インテリジェント・コスモス学術振興財団の「第3回インテリジェント・コスモス東北文化奨励賞」を受賞した。

これは、東北が生み出した先見性のある文化を体系化して、内外に発信する優れた活動に対し贈られるもので、10年前から「南部菱刺し」に関する研究・教育活動に取り組んできた成果が認められた。

川守田准教授は、この受賞による助成を受け、青森県南部地方の手仕事である「南部菱刺し」と、地方の近代化に伴っ



て変容した地域の衣生活文化との関わりについて研究・考察、さらに、現代の製作者調査を通して、南部菱刺し製作の伝統知が後進にどのように継承されたのかを明らかにする予定であるという。

未来の建築設計士に、エールを

5月14日～16日、本八戸駅前に位置する本学サテライトで、土木建築工学科4年生による「2021年度設計演習課題作品展示会」が開催された。

これは2019年から始動している「空き家リノベーションプロジェクト（通称：アキヤブ）」の一環として行われたもので、コロナ禍での感染防止対策を行いながら作品11点が展示された。

作品は、光と風が通る住宅やまちの風景に「わ」のアクセントを取り込んだ図書館、コミュニティルームとレストランがある緑をふんだんに取り入れた集合住宅などが並び、近未来的な中心街をイメージさせるものであった。卒業まで残り1年、彼らの成長に期待したい。

土木建築工学科講師 西尾 洸毅



学生の声

入学して3か月、システム情報工学科1年関口結実さん（八戸北高出身・写真左）に、インタビューしました。



Q. 本学に進学した理由は何ですか？

A. 地域活性化に貢献したいと考え、本学を受験しました。世界中のあらゆる分野でICTが発達しており、これからの時代を強く生き抜くための力を身につけた

いと思います。

Q. いま頑張っていることを教えてください

A. 常に前向きな姿勢で講義に臨み、新しい知識・技術の習得に努めています。また、学友会に所属し、学生の皆さんが安心安全に行事を楽しめるよう企画・運営に頑張っています。

Q. 皆さんへ、メッセージをお願いします

A. 自分が本当に学びたい事、興味のある分野を追求することは、毎日の自分を輝かせてくれます。様々なことにアンテナを張り、日々丁寧に過ごしてほしいと思います。

八戸圏域 IC カードデザイン決定

6月24日、八戸市庁にて八戸圏域 IC カード名称・デザインが発表され、佐々木南海さん（創生デザイン学科2年／百石高）のデザイン案が採用された。当日は小林市長とともに佐々木さんも記者発表会に出席した。

カード名称は、八戸圏域公募の中から選定委員会で「ハチカ」に決定。これを受けて、創生デザイン学科の学生有志がカードのデザイン制作に参加したもので、市職員とのワークショップも開催された。



名誉教授の称号授与

6月18日、福士憲一氏、橋本都氏の2名に、本学での研究活動や学生への教育指導、高大・地域連携の発展など社会貢献へ寄与した功績を称え、坂本禎智学長より名誉教授の称号が授与された。

◇福士 憲一 氏 (写真左)

1977年着任。44年の長きにわたり奉職され、後年は副学長などの要職を務められた。

溶解空気浮上法に関する研究、膜ろ過による浄水処理技術の開発に関する研究をはじめ広範囲な分野の研究を行い、大学院では博士後期課程の指導教員として博士(工学)の学位を授与した。青森・岩手県境産廃廃棄物不法投棄現場原状回復対策など地域社会の技術発展に大きく寄与し、また、青森県環境審議会委員長、八戸市公共下水道基本構想検討委員会委員長ほか、極めて多くの各種委員会委員・委員長を長年にわたり務め、地域に多大なる貢献をされた。一方で、硬式野球部の顧問を務められるなど課外活動の支援にも携わられた。

水処理工学、上・下水道工学、水環境工学、環境工学を専門。

◇橋本 都 氏 (写真右)

2014年着任。前職では青森県立高校教諭を皮切りに青森県教育委員会教育長の重職に至る。文部科学省の初等中等教育局小学校課教科調査官、中央教育審議会委員ほかを歴任、国の教育行政にも広く活躍した。

着任後は、本法人理事、本学初的女性副学長に就任。総合企画室長、運営・組織体制等検討委員会委員長として経営改善計画を策定するなど大学を含め法人運営に大きな功績を挙げた。

現在も(独)教職員支援機構監事(文部科学大臣任命)ほかを務め、広く社会貢献に尽力されている。



<50周年記念行事>

マチナカ公開講座開催中

2022年の本学創立50周年を前年に控え、工学・デザイン・地域・教養に関連した講座が、5月からポータルミュージアムはっちをメイン会場に実施されている。

この講座の醍醐味は、大学教員がそれぞれの専門分野と、一般の方が興味あるだろう分野の境界に話題を選び、参加の皆さんとフランクに語り楽しむ場の創出にある。

～終了した講座から～

「医工連携～地域の医療体制充実のために～」(浅川拓克准教授) 移動型緊急手術室ドクターカー1号機からV3に至る開発秘話。

(写真上)



「LEDの仕組み～半導体はなぜ光る?～」(石山武教授) LEDに使用されている半導体のしくみや青色LED誕生について。(写真中)



「北斎とリヴィエール 2つの三十六景」(石毛清八准教授) 北斎「富嶽三十六景」と、北斎に影響されたアンリ・リヴィエールのエッフェル塔三十六景を紐解く。

「種差海岸の植生に萌える!～津波に負けない強さのヒミツ～」(星野保教授・鮎川恵理准教授) 植物学と菌類額の視点から、大津波に耐えた種差海岸の植物の生態について紹介する、野外観察型の講座。(写真下)



50周年シンボルマーク決定

2022年、本学は創立50周年を迎えるにあたり、シンボルマークを募集。応募総数630点から、次の作品が選ばれた。

・シンボルマーク制作者

村上 正剛 氏

(株式会社アイトマ代表取締役社長クリエイティブディレクター)

・スローガン

工学 × デザイン × 地域

・コンセプト

開かれた8枚の扉は、可能性への入口と地域に開かれた大学を象徴。青2色のコンビネーションは、工学とデザインの融合、大学と地域の連携、八戸の青い海や空との共生を、表現。



八戸工業大学
Hachinohe Institute of Technology

マチナカ公開講座予定

「スポーツ動作の科学」

講 師 基礎教育研究センター 大室 康平 准教授

と き 7月24日(土) 13:30~15:00

ところ はっち1F ギャラリー1

「海の波のはなし」

講 師 土木建築工学科 加藤 雅也 教授

と き 7月31日(土) 13:30~15:00

ところ はっち3F ギャラリー3

「八戸の地盤～地震で揺れにくいエリアはどこだ?～」

講 師 土木建築工学科 金子 賢治 教授

と き 8月1日(日) 13:30~15:00

ところ はっち3F ギャラリー3

久慈高校出前講座

5月・6月と岩手県立久慈高校の総合的な探求の時間で出前講座を行った。この内、基礎教育研究センター岩崎真梨子准教授は、1・2年生を対象に「テーマ、課題、仮説、問い」に関する講座を行った。



生徒たちは、地域の課題を解決するにあたりどのような観点が必要か解決方法の探索を学び、課題解決の4サイクルを手掛かりにワークシートを作成していた。生徒たちは、真摯な姿勢で学び、積極的に記述に取り組み、自ら探し出した地域の課題を発表した。

高大連携は、高校生が普段会わない大学教員から何かしらの影響を受けられ、教員もまた研究のヒントが得られる。今後も、良好な関係の出前講座の継続を願う。

すっぽんせんべい共同開発

この度、本学地域産業総合研究所は、県内企業の(株)東北すっぽんファームと(株)味の海翁堂の三者で、共同開発プロジェクト「すっぽん鍋風南部せんべい」を作成した。

(株)東北すっぽんファームで育てられている「兜すっぽん」の飼育環境や品質向上の調査・技術相談を本学が担い、(株)味の海翁堂が独自の製造技術を駆使することで、東北で親しまれている南部せんべいを題材に本商品が誕生した。

また、南部菱刺しをイメージした商品のパッケージデザインは、創生デザイン学科宇野あずさ助教が担当した。

当研究所は、産学連携を通して、地域の話題作り、地域活性化を目指し様々なプロジェクトに今後も取り組んでいく。



保護者懇談会のお知らせ

今年度の保護者懇談会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本学を会場の個人面談(9月11日・12日)と、電話での懇談が予定されている。(写真は昨年度開催)



7～10月の予定

7月29日～8月4日	前期定期試験
8月7日・8日	オープンキャンパス
8月13日～17日	大学休業
8月25日～27日	大学院入試
9月6日～13日	前期補習再試験
10月2日	学部総合型選抜試験第1クール
10月9日・10日	学園祭

夏のオープンキャンパス開催予定

本学入試部のLINE公式アカウント(下記QRコードより、ログイン)では、オープンキャンパスや入試情報などを発信しています。夏のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながらの開催のため、詳細についてはLINEまたは大学HPでご確認ください。



開催予定日: 8月7日(土)・8日(日)

<https://www.hi-tech.ac.jp/>

進学相談会予定

※変更する場合があります。
ご注意ください。

開催日	時間	開催地	会場
7月12日(月)	15:00～18:30	宮城	仙台サンプラザホール
9月3日(金)	15:00～18:30	秋田	アルヴェ
9月8日(水)	15:30～18:30	青森	リンクステーションホール青森
9月9日(木)	15:30～18:30	青森	八戸プラザアーバンホール
9月21日(火)	15:30～18:30	岩手	アイーナ
11月17日(水)	15:00～18:00	秋田	アルヴェ
12月1日(水)	15:00～18:00	青森	アートホテル弘前シティ
12月2日(木)	15:00～18:00	青森	八戸プラザアーバンホール
12月3日(金)	15:00～18:00	岩手	アイーナ

2022年度入試予定

入試区分	願書受付期間(必着)	試験日
総合型選抜試験	第1クール 9月15日(水)～9月24日(金)	10月2日(土)
	第2クール 11月17日(水)～11月26日(金)	12月4日(土)
	第3クール 1月24日(月)～2月2日(水)	2月14日(月)
	第4クール 2月28日(月)～3月4日(金)	3月9日(水)
学校推薦型選抜試験	指定校制 11月1日(月)～11月5日(金)	11月13日(土)
	公募制 11月29日(月)～12月7日(火)	12月15日(水)
一般選抜試験	前期 1月4日(火)～1月25日(火)	2月2日(水)
	後期 2月14日(月)～2月24日(木)	3月4日(金)
大学入学共通テスト利用選抜試験	前期 1月4日(火)～1月25日(火)	2022年1月15日(土)・1月16日(日)の大学入学共通テスト
	中期 2月1日(火)～2月14日(月)	
	後期 2月28日(月)～3月14日(月)	

訃報

土木建築工学科橋詰豊准教授が、5月末急逝された。

新潟県出身、平成8年3月本学建築工学科卒業、平成13年9月本学大学院を修了、博士号取得。企業に就職後、本学研究員を経て、土木建築工学科准教授となった。生前は、研究熱心で学生の指導も丁寧な、人望の厚い穏やかな方であった。その功績を讃えて、模範等教職員としての感謝状が贈られた。先先生のご冥福を心からお祈りする。



第74回 青森県高等学校 総合体育大会



6月4日～7日、第74回青森県高等学校総合体育大会が青森市を主会場に開催され、本校から14競技に出場した。

多くの3年生が今大会で部活動の引退となるため、どの運動部もこれまでの集大成として、ベストを尽くせるよう日々鍛練を重ねてきた。

団体競技では、男子硬式テニス部（団体）と女子サッカー部が決勝進出を果たした。決勝戦では惜しくも敗れてしまったが、持てる力を出し切り、見事な準優勝となった。残念ながら入賞できなかった部も、チーム一丸となり、最後まで諦めない姿勢で戦い抜いた。

心身ともに逞しく大きな成長を見せた熱い高校総体であった。

ポスター表彰



第74回青森県高校総合体育大会ポスターコンクールにおいて、最優秀賞に美術コース2年生の大久保彩音さん（八戸一中／写真中央）、優秀賞に吉田風花さん（三沢一中／写真左）、一ノ瀬そのかさん（田子中／写真右）が選ばれ、5月27日に本校にて表彰式が行われた。



野球部

令和3年度春季青森県野球選手権大会 ベスト4進出

3年生9人、2年生9人、1年生7人、マネージャー3人の規模が小さいチームで、選手層が薄く、強そうには見えないが、少人数であることと、3年生の人間性がチームを強くしたように思う。去年の秋季県大会の2回戦敗退や春季八戸地区大会、春季地区予選で負けるたびにチームのレベルが上がっていった。負けた悔しさをバネにこれほど結果として出すことのできるチームは今まで見たことがない。レギュラーだけでなく、控え選手の意識も高く、確実に上達している。ベスト4はチーム全員で野球に向き合った結果である。

今後も白熱した試合を期待している。

野球部部長
寺建 晴央



小倉百人一首かるた部

青森県高校かるた選手権大会第4位

5月23日、八戸市福祉公民館において、第23回青森県高校かるた選手権大会が行われた。本校からは今田碧さん（カレッジコース3年／八戸三中／写真中央）が第4位に入賞した。

映画「ちはやふる」で広く知られるようになった「競技かるた」は、全国高等学校文化連盟の専門部の一つであり、全国高等学校総合文化祭では、都道府県対抗の団体戦（5人1チーム）で行われる。



情報ビジネスコース

❖ プログラミング講座 ❖

4月10日、情報ビジネスコースの生徒73名が、八戸工業大学のアニメーションプログラミング講座に参加した。指導には、同大学システム情報工学科の小玉教授があたった。生徒に早期からプログラミングの知識を身に付けさせるため、今年度初めて行ったもの。参加した生徒は、「簿記や情報処理の資格に加えて、プログラミングももっと勉強したいと思った。パソコンでできることが増えて嬉しい」と感想を述べた。



❖ 清掃奉仕活動 ❖

6月12日、情報ビジネスコースの全生徒が、蕪島・館鼻岸壁・魚市場周辺の清掃奉仕活動を行った。例年実施しているこの清掃活動は、2・3年生のリードのもと、全学年が一緒に活動をする情報ビジネスコース生同士の交流の場でもある。

生徒達は、ウミネコバクダンに悲鳴を上げながら清掃を行い、それぞれにタバコの吸い殻など細かなゴミを探して拾っていた。



美術コース

◆ スケッチ実習 ◆

5月25・26日、美術コース校外スケッチを実施した。今年は奥入瀬溪流と湊町の2カ所に分かれ、自然が生み出した美しいコントラストや、人工物と自然物の調和を題材にスケッチした。

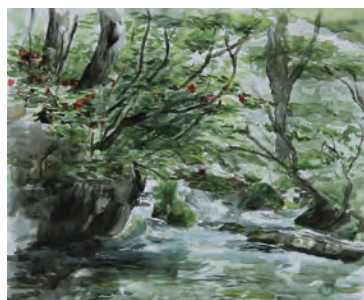
両日とも晴天に恵まれ、湊町では停泊した船や、趣のある路地を細密に描く者が多くいた。奥入瀬溪流では、生徒たちはそれぞれ気に入った場所で集中して制作に取り組み、光の差し込む水辺の絵を楽しんで描いていた。



奥入瀬溪流



奥入瀬溪流



湊



カレッジコース

◆ OBによる特別講義 ◆

5月15日、本校OB村井京太氏（合同会社Glovaluation代表）を講師として迎え、「グローバルサプライチェーンと文化多様性」と題し特別講義が行われた。

生徒たちは海外に物を売ることや、SDGsに関連することを学び、講師との相互授業を通して知識を深め、グループワークと課題解決案のプレゼンテーションにも取り組んだ。「食」を中心に他国との関り、文化の違いについて考えるよい機会となった。

参加した横地梓さん（2年／是川中）は「日本は先進国というイメージがあったが、まだ発展途上の部分も多く残されており、諸外国と比べてもSDGsやHACCPなどで遅れているものもあることが分かった」と感想を述べた。



◆ 震災学習 ◆

6月12日、本校2年生のカレッジコース生が、岩手県宮古市を訪れ、震災学習を行った。明戸海岸防潮堤と鳥越ふれあい公園を見学し、その後、田老町の防波堤や「たろう観光ホテル」にてガイドの説明を受け、津波ビデオを視聴した。参加した日向叶望さん（市川中）は、「実際に被害を受けた方の話を聞いて、胸が痛かった。もしもの時は、自分で考え、視野を広くして行動したいと思う」と感想を述べた。



◆ 医療学概論出前講義 ◆

6月11日、3学年メディカルカレッジクラスを対象に医療学概論出前講義を行った。「障害者スポーツと障害児教育について学ぶ」と題し、八戸第二養護学校の小野裕樹氏を迎え講義をしていただき、7月9日には実際に車いすバスケットボールを行った。

障害がある人に対し、「ダメ、無理」とせずに「これはどうですか」と違う方向から手助けができる人、困難は人によって様々であるため、それを理解するには実際に経験してみなければならないということを学んだ。

参加した、中里太陽君（大館中）は「オリンピックだけでなくパラリンピックにも注目してみたい」と感想を述べた。



◆ アクティブカレッジクラス集会 ◆

4月17日、全校のアクティブカレッジクラスの生徒が集まり、集会を行った。生徒たちは縦割り班を作り、班ごとに3年生から1・2年生へ学校生活に関するアドバイスをした。3年生からは勉強と部活動の両立に関する意見が多く述べられ、下級生はメモを取りながら、真剣に耳を傾けた。参加した藤田陽向さん（2年／三沢一中）は「先輩たちのように、通学の時間などを活用して、部活も勉強も頑張っていきたい」とこれからの抱負を述べた。



うんどうかい

～ 年中 かけっこ ～



「ゴールをめざして、
よーいドン!!」

～ 開会式 ～



「さいごまでがんばろー! エイエイオー!!!」

～ 満3歳・年少 親子ゲーム ～



「おはなばたけへ
プ～ン!!」

～ 年長 遊戯「銀河鉄道 999」～



「みんなでころろをひとつに!!!」



～ 八戸工業大学吹奏楽部 ～



「すてきなえんそう ありがとうございます。
きめつのきよくも かけこよかったよ♡」

6月26日（土）運動会が開催された。子どもたちは登園すると一目散に友達のもとへ。徐々に人数も増え、始める前に疲れてしまうのではと心配になるほどトラックの中を走り回っていた。

八戸工業大学吹奏楽部のミニコンサートの後、いよいよ入場開始。唯一同じ種目はかけっこ。ちょっとすると脇道に逸れる満3歳兄や年少兄はゴールで待つ先生を目指してよーいドン。年齢が上がるにつれ、競争意識が見られるようになり、スピードも表情も違っていった。この日、一番笑顔が溢れたのは親子競技。見ていて気持ちがほっこりした。何事もなく無事に終了することができたことに感謝。



おみやげいっぱい

みどりの風

「パパおみやげー」と仕事から帰ると作り物を持って出迎えてくれる娘。可愛いお土産は職場のデスクに飾って、「今日も頑張ろう!」とスイッチを入れます。下の娘が年長で、上の娘と息子もお世話になりました。

三人共、毎日の様にお土産を持って帰ってきていました。自分と同じ位の大きさの超大作や、沢山の三つ編みされたカラフルテープ、手裏剣やメダル等、家でも兄妹で教え合いながら作ったりしていま

す。こうしたコツコツ取り組む事で、集中力が身に付き、立派な作品が出来るのだなあとと思いました。作品展のクオリティの高さは初めて見た時、感動しました。

また、お店屋さんごっこの商品も、先生方のアイディアに感心させられます。今回も何を買ってくるのか今から楽しみです。毎日楽しく過ごさせてもらっているさくら幼稚園、先生方には感謝でいっぱいです。残り数か月の園生活、一緒に見守りたいと思います。



ゆり組 たねいちなつなちゃんのお父さん
種市 匡さん



ようちえんってこんなところ



～遠足～



「うっひょ～
たくさん ぶってきた～!!!」

～幼年消防クラブ編入式～



「ぼくたち、わたしたちは、
ひあそびをしません!!!」

～年長組の畑～



「おいしいピーマンが
できますように♡」



とらんぽりん

～ある日の保育日誌～



満3歳児いちご組 5月21日(金)

今日は八戸工業大学への遠足。何日も前から「バスにのりたい」「おべんとうつくってもらう」「みなでいっしょにいこう」と言ったり、約束ごとを話すといつもより静かに真剣な表情で聞いていたりする姿から、遠足を楽しみにしていたことが感じられた。

大学のメディアセンターでは、様々な色や形の紙吹雪体験をした。最初は、戸惑ったようだったが、繰り返し上から落ちては空中を舞う紙吹雪を、触ったり拾ったり。館内に、笑顔で走り回る子どもたちの歓声が響き渡った。



「こむぎこねんど、
びよよ～ん!!」

年小組 5月25日(火)

歯科検診で泣き出してしまったAちゃん。傍について「だいじょうぶだよ」と声を掛けてみると、その様子に気付いたB君が頭をなでたり、声を掛けたり優しく接していたので「B君優しいね。ありがとう」と伝えると、嬉しそうにしていた。そんなB君が「かえらない」と帰りの準備をしたがらずにいると、「せいふくをきたら、かんゆたべられるよ」とC君が声を掛けた。するとすぐに着替え始めた。子ども同士の与える力と成長を感じた日だった。

年中組 5月12日(水)

今日は、初めての参観日。お家の人たちが次々に来るのを見て、嬉しそうな表情をしていた。片付けもいつもより早く、朝の歌も声が出ていて「ホールにいるおかあさんたちにきこえるかな」と言うなど、いいところを見せたい気持ち強く感じられた。ホールに移動し、親子で自己紹介とフルーツバスケットをしたが、お家の人と一緒にできると大喜びではりきって参加していた。保護者が帰る時が心配だったが、何とか泣かずに離れられた。



「すなあそび、
たのしいよ!!」

年長組 5月18日(火)

今日は風も強くなく、園舎裏の畑に野菜を植えた。どんな野菜を植えるのか興味津々の子どもたちに苗を見せ、説明をした後順番に植えた。手のひらで土をかけるのではなく、指先でかける子が多かった。両手を使いしっかり押すようにかける子がいる一方、土に触れることへの抵抗や経験がない子も見られたが、全員で土に触れ植えることができた。これから水やりや草取りを経験しながら収穫の喜びを味わえるように指導していきたい。

防災・減災教育&三陸ジオパーク研修旅行

6月3日・4日の1泊2日で、防災・減災教育と三陸ジオパーク見学を兼ね、附属中2・3年生が岩手県内を訪れた。

1日目、十府ヶ浦海岸から始まり、明戸海岸防潮堤、島越ふれあい公園、たろう観光ホテル、命をつなぐ未来館・祈りのパークを訪れた。たろう観光ホテルでは、ここでしか見ることができない津波の映像を実際の撮影場所から鑑賞し、津波の恐ろしさを肌で感じた。北山崎展望台、浄土ヶ浜では、地形の様子などを目の前で見学することで自然の大切さと素晴らしさを実感した。

2日目、遠野市後方支援資料館、岩手県の歴史と風土を学ぶために遠野市立博物館、宮沢賢治記念館を訪れた。物語に隠されている賢治の思いなどを知る良い機会となった。

生徒からは「地震発生時は、被害を最小限に抑えるためにいち早く行動することが大切だとわかった」などの感想が数多くあり、充実した研修となった。



オリエンテーション合宿

4月9日・10日、種差少年自然の家にて、オリエンテーション合宿を実施した。校風である「礼儀・礼節」を意識した集団生活を通じて、相互理解を深めるとともに附属中生としての自覚をもつことを目的として実施された。

全学年揃ってのアイスブレイクや教員による中学校のルールについての講演、せんべい焼き体験など様々なワークショップが行われた。中でも、上級生から下級生に勉強の仕方などをアドバイスするワークショップでは、先輩が後輩に真剣に伝える様子や、下級生の、先輩に質問した答えに耳を傾け、熱心にメモをとる姿が見られた。

この2日間は天候にも恵まれ、仲間との時間を生き生きと過ごし、教員と生徒の相互理解も深めることができた。



校内弁論大会



6月9日、校内弁論大会が行われ、各学年の大会で選抜された6名の弁士による熱い主張が繰り広げられた。

審査の結果、相畑陽人君(3年/種差小(写真))の「意見をもつことの大切さ」が第1位を獲得した。相畑君は、大企業の入社試験においては、知識を問う問題よりも様々な事柄について自分がどう考えるのかを問う問題が多いことを例に挙げ、自分自身がしっかりと意見を持つことの重要性を述べた。

また、第2位の沢口響花さん(3年/戸来小)は、「理想に向かって」という演題で、母親が家族のために頑張っている姿や親戚の叔母をサポートする様子を見て、自分も母親のように人のために力を尽くしたいという思いを語った。

生徒からは、「6人の弁論を聴き、様々な視点をもって考えることが大切だと思った。」といった感想があり、日頃の行動や考え方を見直す良い機会となった。

～ご寄付のお願い～

「八戸工業大学第一高等学校教育基金」

本校では、生徒が社会を逞しく生き抜き、社会に貢献できる人材となるため、日々教育内容の改革を進めているところです。つきましては、生徒のため本校が更なる発展ができますようご協力をお願いいたします。

なお、詳しくは事務局までお問い合わせください。



<事務局>

〒031-0822 青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
八戸工業大学第一高等学校 事務室内
Tel 0178 (33) 5121 / Fax 0178 (34) 3942

理事会・評議員会

◇4月30日 理事会

・「新型コロナウイルス感染症に伴う八戸工業大学学費等減免特別支援規程」に係る件

◇5月28日 理事会・評議員会

・令和2年度監査・事業報告・決算
・八戸工業大学「名誉教授の称号」授与に関する件
・八戸工業大学第一高等学校教育基金に関する件

◇6月30日 理事会

・「学校法人八戸工業大学模範等表彰」に関する件
・資産運用等に関する件

表紙 祝 闘魂旗獲得 八戸工業大学第一高等学校